

# 令和7年度 事業報告

## はじめに

昨年を振り返りますと、国内では極端な小雨により大面積の森林が延焼する国内最大規模の山地災害が発生するなど、引き続き全国各地において自然災害が相次ぎ、改めて国土保全と防災・減災対策の重要性が強く認識される一年となりました。地震や豪雨、台風、大雪などの自然災害に加え、記録的な猛暑の影響による作業環境の悪化など、気候変動の影響は森林・山村地域においても顕著となっております。このような状況の中、森林が有する水源涵養や土砂災害防止などの多面的機能を維持・発揮させるための森林整備事業および森林土木事業の果たす役割は、ますます重要なものとなっております。

建設業界においては、資材価格や労務費の高止まりが続く一方、担い手不足や高齢化への対応、時間外労働規制をはじめとする働き方改革への対応など、構造的な課題が引き続き顕在化しております。担い手三法の改正を受け、発注者と受注者の協議の円滑化、ICT活用の推進、適切な工期設定などの制度整備が進められておりますが、現場においては、これらの施策を着実に定着させ、生産性向上と労働環境改善を両立させていくことが求められています。

特に森林土木工事は、山間奥地における厳しい自然条件下での施工が多く、作業の安全確保や省力化、若手技術者の育成・確保が喫緊の課題となっております。こうした課題に対応するためには、現場実態を踏まえた適正な発注条件の確保とともに、技術力の向上や新技術の導入を通じた生産性向上、働きやすい職場環境づくりを一体的に進めていくことが不可欠であります。

令和7年度におきましても、名古屋林業土木協会の会員企業は、コンプライアンスを遵守し、発注者との信頼関係を基盤として、公共工事の品質確保、労働安全の徹底、技術力の研鑽、環境保全および社会貢献活動に積極的に取り組んでまいりました。これらの活動を通じ、山村地域の振興と林業土木事業の持続的な発展に寄与することを目指し、理事会で承認され第59回定時総会で報告した事業計画に基づき、各委員会および青年部が中心となり、各支部・会員が一体となって事業を推進してまいりました。

以上の基本的な考え方のもと、令和7年度に実施した主な事業および活動内容について、その概要を以下に報告します。

## 1 「防災・減災、国土強靱化対策」の推進への協力

### ① 発注工事の適正な受注に向けた取組

国土強靱化対策の推進に伴い公共事業予算は各省庁で増加し、工事発注件数が増加する中、円滑な執行に向けて各発注機関からも協力要請があるなか、協会としては継続的な林業土木事業の重要性を認識し適切に受注していくこととしていますが、地域によっては技術者や労働力の不足により入札不調となる工事も発生しました。協会は、会員への応札を呼びかけとともに、事業を円滑に実施していくために発注情報の早期公表と資材価格高騰等に対する適切な変更協議など発注機関へ要望しました。

また、会員が提出した改善要望事項に対し森林管理署等の担当者との意見交換会を開催し、課題の解決と受・発注者間のコミュニケーションを図るとともに改善困難な事項は合同委員会の中で森林管理局より回答を頂きました。今後も引き続き、それぞれの現場実態あった適正な設計積算など要望・意見交換を行い、発注者、受注者双方が共通の認識に立ち効果的・効率的な事業実施を目指して取り組んでいきます。

### ② 国有林防災ボランティア活動等

ア) 令和7年は、名古屋協会内の国有林においては幸い大規模な豪雨災害等の発生は見られず「国有林防災ボランティア協定」に基づく防災協力の要請はありませんでしたが、局地的豪雨が発生した際には、国有林野、林道等施設を自主的にパトロールを行い、状況を森林管理署へ報告するとともに必要に応じ二次被害防止の措置を行いました。

イ) 国有林防災ボランティア協定に基づく会員登録・更新に取り組みました。

### ③ 緊急応急工事対象者公募への対応

災害発生時に迅速な対応ができるよう、中部森林管理局における緊急応急工事対象者公募に対し、会員の積極的な応募を働きかけ41社が登録・更新しました。

### ④ 中部防災推進ネットワークへの参加

南海トラフ地震など巨大自然災害が懸念される中、中部圏における「業界団体」間の共助を促進し、合わせて「ボランティア団体」「地縁組織」「行政組織」との協働を図り、広域的な災害対応の実現を目指すことを目的とし設立された中部防災推進ネットワークでの勉強会等に参加し防災対策の情報収集活動を行いました。

## 2 森林・林業社会貢献活動の取り組み

林業土木事業の活性化を通じた地域振興に向け、掲示板による事業のPRをはじめ、社会貢献活動の一環としての安全・安心な地域づくり及び国有林を地域が活用し地域振興に取り組むレクリエーションの森制度に協力するなど、山村地域の振興に向けた取り組みを実施しました。また、その取り組んだ活動内容は協会ホームページにより広報しました。

### ① 林業土木事業の活性化を通じた山村地域の振興

- ア) 掲示板によるPR 5回
- イ) 新聞紙面への広告 2回

### ② 森林空間を利用した事業へのボランティア活動

実施日	行事名等	実施場所	関係支部	参加者
5月12日	宮の大イチイ遊歩道整備外	高山市	久々野高山支部	20名
5月18日	津保川周辺清掃作業	関市	岐阜支部	12名
5月27日 ～5月30日	国有林ゴミゼロ活動 (金華山、付知峡、卯の花街道、定光寺)	高山、岐阜、中津川、瀬戸市	飛騨4、小坂、岐阜、東濃3、愛知支部	109名
5月29日	定光寺自然休養林遊歩道整備	瀬戸市	愛知支部	15名
6月11日	防風林(大沢野国有林) 獣害対策	富山市	富山支部	25名
6月24日	平湯大ネズコ歩道整備外	高山市	神岡支部	雨天中止
7月15日	山中山保護林への道路整備	高山市	荘川支部	10名
8月8日	岩村城趾・岩村国有林清掃外	恵那市	東濃3支部	25名
9月19日	白木峰登山道への林道整備外	飛騨市	古川支部	12名
9月10日	白草山登山道への道路整備外	下呂市	小坂支部	20名
12月16日	古城山遊歩道整備	美濃市	岐阜支部	19名

#### 【参考】

令和7年3月 森林・林業社会貢献活動感謝状授賞状況 <令和6年度における活動が対象>

局長感謝状 団体部門：協会2(6) 署長等感謝状 団体部門：協会(支部)1(2)

企業部門：5社(6) 企業部門：1社(3)

※( )は感謝状の全体数

## 3 技術向上への取り組み

5月27、28日、高山市の「高山市民文化会館」において、林業土木技術講習会を開催し、講師、スタッフ含め167名が参加しました。

11月22、23日には、令和7年度林土連技術現地研修会が長野県軽井沢町に

において開催され名古屋協会からは7名が参加しました。

各支部が実施する現地研修会では労働災害防止にかかる安全点検のほか新技術や現地の実態にあった工法等の検討を行いました。

＜現場における技術向上等に向けた研修会等＞

実施日	研修名等	実施場所	森林分野 CPD等	参加者
5月27、28日	林業土木技術講習会	高山市	CPD:14単位 CPDS:14ユニット	167名
6月10日	林野庁キャラバン	長野市	—	4名
7月28日	治山・林道技術研修	下呂市	CPD:4単位	19名
7月29日	治山林道技術研修	恵那市	CPD:4単位	25名
9月24日	治山・林道技術研修	黒部市	CPD:4単位	16名
10月10日	治山・林道技術研修	高山市	CPD:4単位	24名
10月22日	治山・林道技術研修	関市	CPD:4単位	11名

#### 4 労働災害の防止活動

年度当初に、安全標語を募集し秀逸作品から”安全のぼり“を作成するなど安全活動意識の向上と啓蒙に取り組みました。また、労働災害情報の速やかな現場周知により安全意識の向上を図りました。

各支部が実施する現地研修会では、労働基準監督署や森林管理署とも連携した合同安全パトロールを実施し労働災害防止と安全の確保を推進しました。また重機による転落事故が2日連続して発生したため全工事の施工現場において緊急の安全指導及び安全点検を実施しました。

＜安全パトロール等の実施状況＞

実施日	研修名等	実施場所	関係支部	参加者
6月2日	緊急安全パトロール・安全会議	下呂市	小坂支部	7名
7月28日	安全パトロール&安全会議	下呂市	小坂支部	19名
7月29日	安全パトロール&安全会議	恵那市	東濃3支部	25名
9月24日	安全パトロール&安全会議	黒部市	富山支部	16名
10月10日	安全パトロール&安全会議	高山市	飛騨4支部	24名
10月28日	安全パトロール&安全会議	関市	岐阜支部	14名
11月29日	安全パトロール	中津川市	東濃3支部	18名
12月5日	安全パトロール&安全会議	設楽町・豊橋市	愛知支部	13名



## 5 会員意見反映の取り組み

担い手三法の施行を踏まえ、ICT 活用や新技術の導入、施工性に優れた工法を発注・積算・設計段階から適切に反映していくことが求められ、特に仮設工については、現場で実際に必要となるものを発注時点から見込むことが重要となっています。このため、施工業者からは施工性向上に資する工法や現場での工夫を、設計業者はそれを実施設計に反映する方法を、発注者・施工者・設計者の三者で共有する意見交換会を中部森林管理局が開催し、名古屋協会からは 66 名の技術者が現地検討を含め参加し、今後の発注・設計の改善へ向け意見反映しました。

### <森林管理署等との意見交換会開催状況>

実施日	森林管理署等	対象者等	関係支部	参加者
2月25,26日	三者技術検討会議(局主催)	発注者、施工者、設計者	全支部	19名
3月13日	飛騨森林管理署	監督員と現場代理人	飛騨4支部	26名
7月23,24日	三者現地検討会(局主催)	発注者、施工者、設計者	全支部	54名
10月29日	東濃森林管理署	監督員と現場代理人	東濃3支部	21名
12月5日	愛知森林管理事務所	監督員と支部会員	愛知支部	13名

## 6 協会運営

定時総会、理事会を基本とした運営に加え、安全・技術対策委員会、環境・社会貢献委員会、コンプライアンス委員会および青年部の各組織が連携し、組織的に取り組んできました。

### <総会・理事会開催状況>

実施日	会議名	実施場所	内容等
1月9日	三役会議	長野市	協会運営等(中部局へ年始の挨拶)
2月17日	第1回理事会	名古屋市	総会議案書関係
3月11日	第59回定時総会 第2回理事会	名古屋市	全会員59名(委任状13名)により提案議案可決。総会出席者は62名
5月15日	第3回理事会	長野市	林業土木技術研修会、60周年行事関係コンプライアンス委員会
9月16日	第4回理事会	富山市	60周年記念行事、技術現地研修会ほか
12月16日	第5回理事会	名古屋市	R7決算見込、R8事業計画ほか

<安全・技術対策委員会、環境・社会貢献委員会関係>

実施日	会議名	実施場所	内容等
4月23日	第1回合同委員会	名古屋市	委員会活動方針等
12月16日	第2回合同委員会	名古屋市	改善要望事項について中部森林管理局担当官から回答及び意見交換ほか

<青年部関係>

実施日	会議名	実施場所	内容等
2月4日	令和7年度総会	名古屋市	活動方針等について全部員が賛同
4月23日	第1回役員会	名古屋市	青年部研修会(60周年行事)ほか
6月26日	札幌青年会議と交流会、第2回役員会	札幌市	青年組織の活動について情報交換
10月1日	第3回役員会	名古屋市	60周年記念行事運営打ち合わせ
10月20日	青年部研修会	名古屋市	60周年記念講演会と祝賀会運営の対応
12月1日	林土連青年交流会検討委員会	WEB会議	全国の青年経営者の連合組織としての設置に関する検討会議(札幌、名古屋、九州、林土連)
11月27日	第4回役員会	魚津市	令和8年青年部総会議案書ほか

## 7 その他

協会は、令和7年10月20日に創立60周年を迎えました。この節目にあたり、記念事業として講演会および祝賀会を開催いたしました。

記念講演会では、節目の行事にふさわしい講師をお迎えし、林野庁中部森林管理局局長の佐伯 知広 様、ならびにNPO法人共存の森ネットワーク理事長・農学博士の渋澤 寿一 様よりご講演を賜りました。

また、記念祝賀会には多くのご来賓や関係者の皆様にご出席いただき、趣向を凝らした演出のもと、総勢80名が協会創立60年の節目を祝いました。なお、来年度には、これらの記念行事を含めた『60年の歩み』記念誌を発行する予定としております。

## 8 コンプライアンス活動の取組

名古屋林業土木協会では、第48回定時総会(2014年)において発注者・受注者の立場で“よりよいパートナーを目指して”をキャッチフレーズとして取り組みことを決議し、現場技術者が共通の認識を持ち、互いの信頼関係の下、「現場のことは現場で解決する」といった気運を高めることを目的にコンプライアンスを重視しつつ現場レベルでの意見交換を行うなど適切な対応に取り組んできました。

しかし、令和2年に他の協会の林土連会員企業が関与する収賄事件が2年連続して発生したことを踏まえて、令和3年3月、新たに「コンプライアンス委員会」を設置して同様な事件が発生することがないようにヒヤリハットや疑義事案など不適切事案の未然防止に向け更なるコンプライアンス活動に取り組んできました。

昨年は、5月16日に第1回のコンプライアンス委員会を開催し、取組状況の報告と令和7年度の実施計画を決定するとともに、5月に開催した林業土木講習会において中部森林管理局 森林整備課長 永瀬庄栄 様から、12月に開催した合同委員会において中部森林管理局 次長 宮島智幸 様から、それぞれ発注者綱紀保持対策の取り組みに関する協力依頼とご指導をいただきました。

このほか、各支部で開催した森林管理署等との意見交換会や技術検討会議等の場において署等の幹部から発注者綱紀保持対策について指導をいただき、会員のコンプライアンス意識の向上を図りました。



## 一般社団法人名古屋林業土木協会のSDGs宣言

令和3年4月1日

会長 三尾 秀和

一般社団法人名古屋林業土木協会は、岐阜、愛知、富山管内の国有林内の林業土木に携わる会員の技術の向上、経営基盤の強化等に関する事業を行い、もって国土の保全及び地球環境の保全並びに林業土木事業の発展に寄与することを目的として活動している団体です。建設業としての林業土木は森林の保全インフラ整備や防災、更には環境、エネルギーといった人々の暮らしに大きく深くかわかりこれを担っている業界。まさにSDGsのあらゆる局面に関与しています。フォレストサポーターズ活動にも積極的に参加し、日々研鑽し、地域に必要とされる林業土木業界として活動します。

SDGsの考え方である、精神的な豊かさや価値観が合う生き方、共感社会になっていくという動きを理解して、我々協会員一人一人が本気でSDGsを行動につなげ、お客様や地域から信頼され、持続可能な地域社会の創造に貢献できるように尽力していきます。

一般社団法人名古屋林業土木協会は、SDGsを社会貢献の一つとして考えるのではなく『一致団結し確実な協会活動を行うこと=SDGsの目標達成』と考えています。

